第11講　幕藩体制の確立と武断政治
PART4 都市の統制と江戸時代前期の文化

Chapter 1　都市・町人の統制と身分秩序

目標
農村に暮らす人たちと城下町に暮らす人たちの大きな違いは何だろう？
江戸時代の身分秩序の特色について知ろう。

1　城下町とその他の都市

①［1　　　　　　　］の成立
兵農分離策による武士の集住と，
自由営業認可・地子銭免除による町人の集住による，物資の生産・集散の活発化。
※江戸（武蔵国），大坂（摂津国），駿府（駿河国），名古屋（尾張国）など多数。

②城下町の構造
町割が行われ，村と類似した自治的組織である**町**という小社会が多数存在する。
A　**武家地**→城郭と合わせ城下町の大半を占める
B　**寺社地**→寺院・神社を集め宗教統制の中心地となる
C　**町人地**→**町方〔町屋〕**ともいう経済活動の中心地で商工業者の職業別居住区
D　その他→公認の遊郭や郊外のかわた町村など

③生活→**町法〔町掟〕**に基づき運営され仲間・組合・講などもある
市民権を持つ本来の**町人**は少数だが，農民との対比で下層民を含む住民全体をいう。

④負担
年貢は賦課されず，地子銭も免除の場合が多い。
町人足役（上下水道の整備・城郭や堀の清掃・防火など）や**町入用**とよばれる経費は負担。

⑤町人の階層→**名主〔年寄〕**を中心とする町政に参加できるのは地主・家持のみ
地主・家持⇒地借⇒店借〔借家〕・商家奉公人など。
店賃を支払う店借の多くは**棟割長屋**〔九尺二間〕に住む。

⑥その他の都市
A　［2　　　　］　→長崎（肥前国），酒田（出羽国），下関（長門国）など
B　**門前町**　→山田（伊勢国・伊勢外宮），日光（下野国・日光東照宮）など
C　その他　→**宿場町**，鉱山町など

2　身分秩序と封建的意識

①**“士農工商”**→文書行政による支配構造

秩序維持による社会の安定をはかり制定。地位･職業は世襲，階層的主従関係が存在した。

A　士など（約 6 ～ 10％）→武士のほかに皇族・公家や上級の僧侶・神職も支配身分

将軍⇒大名・直参〔旗本・御家人〕⇒陪臣〔大名・旗本の家臣〕⇒軽輩〔足軽・中間・小者〕，牢人など。苗字・帯刀，切捨御免〔無礼討ち〕の特権があった。

B　農（約 80％）→山民・漁民を含む百姓

C　工・商（約 7 ～ 10％）→職人と商人などの家持町人。

②賤民階級

A　**えた　〔穢多〕**（かわた・長吏）→百姓とは別の集落を形成

農業のほか，皮革製造・わら細工や雑役（死牛馬の処理・行刑役など）に従事。

B　**ひにん〔非人〕**

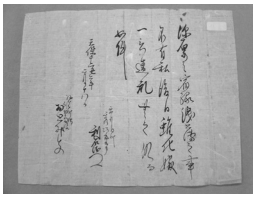
村や町の番人・物乞い・遊芸・清掃などに従事。

③階層的主従関係→分際のわきまえを重視

武士は主君と家臣，本家と分家。農民は地主と小作人，漁民は**網元と網子**。職人は**親方〔師匠〕と徒弟〔弟子〕**。

商人は**主人⇒番頭⇒手代⇒丁稚**，のれん分けによる本家と別家。

④家族関係


三行半

A〔3　　　　〕の重視＝**家制度**の確立

個人よりも家名第一，家同士にも家格が存在。

B　強大な**家長〔戸主〕**権

武士や一部の有力な百姓・町人の家において財産や家業の**嫡子（のち長子）単独相続**や，勘当・婚姻・住居などを決定。

C　強烈な**男尊女卑**→女性に家督・財産の相続権なし

あ　三従の教え「家にありては父，嫁しては夫，夫死して後は子に従え」

い　七去を理由とする**男性からの一方的離縁**→〔4　　　　　　〕

女性からどうしても離縁したい場合は，

鎌倉東慶寺や上野国満徳寺などの**縁切寺〔駆込寺〕**に逃げ込んだ。

まとめ

農村は貢租負担があるが，町は基本的に無税だった。

江戸時代には，階層的主従関係と男尊女卑が存在した。

Chapter 2　寛永期の文化

目標
寛永期の文化が優雅で落ち着いているのはなぜだろう？
儒学のうち朱子学を江戸幕府が重視したのはなぜだろう？

1　寛永期の文化の特色

江戸時代前期，特に**3代将軍家光**の頃の文化を**寛永期の文化**という。

A　桃山文化の豪華さを継承しつつ，伝統的な公家文化も復活。

B　将軍家・大名と，公家や**京都**の上層町衆が担い手となる。

C　社会の安定に伴い，優雅で落ち着いた文化となる。

2　寛永期の文化

①建築

A　［1　　　　　　　　　　］（**下野国，権現造**）

※徳川家康を東照大権現として祀る，**霊廟建築**の代表。**陽明門**も有名。

B　［2　　　　　　］　（**京都，数寄屋造**）

※八条宮智仁親王の離宮, 回遊式庭園の代表。

C　**修学院離宮**　　　（京都，数寄屋造）

※後水尾上皇の離宮。

D　清水寺本堂　　　（京都）

E　延暦寺根本中堂　　（近江国）

F　万福寺大雄宝殿　　（山城国宇治，黄檗宗寺院）

桂離宮

②絵画

A　**狩野派**

狩野探幽が幕府御用絵師となり江戸へ下るが，以後狩野派は様式の踏襲に留まる。

あ　大徳寺方丈襖絵　（狩野探幽）

い　夕顔棚納涼図屏風（久隅守景）→狩野探幽に破門される

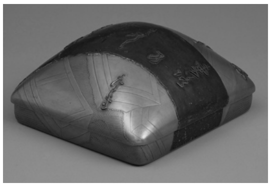
B　住吉派

土佐派から分離した住吉如慶が住吉派を名乗る。

C　町衆による装飾画や風俗画が発達

あ　〔3　　　　　　　　　　　　　　〕**（俵屋宗達）**

い　彦根屏風→彦根藩井伊家が所蔵



舟橋蒔絵硯箱

③工芸

A　**磁器**

色絵花鳥文大深鉢　（〔4　　　　　　　　　　　　　　〕）

☆上絵付法による**有田焼〔伊万里焼〕**の赤絵を完成。

B　蒔絵

舟橋蒔絵硯箱　　（〔5　　　　　　　　　　　　〕）

☆京都の上層町衆であった光悦は，家康から鷹ヶ峰に土地を与えられ芸術村を形成。

多才で，楽焼の茶碗や角倉素庵との嵯峨本（装飾本の一種）出版などでも有名。

④文芸

A　**仮名草子**

教訓や道徳を題材とし，実用性・娯楽性に富む，通俗的な絵入りの仮名書き小説。

B　〔6　　　　　〕→連歌の発句（五・七・五）が独立

あ　**貞門俳諧**　　（**松永貞徳**，京都）→形式的な滑稽さと優雅さ

い　談林俳諧　　（西山宗因，大坂）→より自由・平易さを求める

⑤学問

儒学の一派の〔7　　　　　　　〕**〔宋学〕**が，封建教学として幕府・藩に保護される。

A　**藤原惺窩**

もと相国寺の僧。朱子学を禅宗から解放し，**京学**の祖となる。

※慶長の役の時に朝鮮から連行された姜沆の影響を受ける。

B　〔8　　　　　　　〕〔道春〕

もと建仁寺の僧。藤原惺窩の門人となり，師の推薦で家康に登用され江戸に下る。

４代までの将軍に仕え，幕藩体制の身分秩序を正当化するなど，

支配体制の整備に活躍，**林家**の祖となる。のち上野忍ヶ岡に私塾弘文館を開設。

まとめ　**戦がなくなり社会が安定したため，寛永期の文化は優雅で落ち着いている。**
朱子学は，上下の秩序を重んじるので封建教学として最適だった。

第 11 講　PART 4　確認問題

1　名主〔年寄〕を中心とする町政に参加できたのはどれか。

①　店借　　②　家持
③　地借　　④　商家奉公人

2　門前町にあたるのはどこか。

①　酒田　　②　下関
③　長崎　　④　山田

3　士農工商の割合の組み合わせとして正しいのはどれか。

①　武士：約 6 ～ 10%，百姓：70%
②　武士：約 6 ～ 10%，百姓：80%
③　工・商業：約 5%，百姓：70%
④　工・商業：約 5%，百姓：80%

4　村や町の番人・物乞い・遊芸・清掃などに従事した賤民階級はどれか。

①　かわた　　②　えた
③　ひにん　　④　長吏

5　俵屋宗達が描いたのはどれか。

①　唐獅子図屏風　　②　大徳寺方丈襖絵
③　風神雷神図屏風　　④　夕顔棚納涼図屏風

6 上絵付法による有田焼〔伊万里焼〕の赤絵を完成させたのはだれか。

① 酒井田柿右衛門　② 茶屋四郎次郎
③ 末吉孫左衛門　④ 本阿弥光悦

7 貞門俳諧はだれの俳諧から始まったか。

① 狩野探幽　② 西山宗因
③ 吉田光由　④ 松永貞徳

8 朱子学を禅宗から解放し，京学の祖となったのはだれか。

① 藤原惺窩　② 今井宗薫
③ 山鹿素行　④ 林羅山

第 11 講　PART 4　確認問題 解答

1 解答：②　町政に参加できたのは地主・家持のみであった。

2 解答：④　山田は伊勢国の伊勢外宮が位置する地域。①の酒田(出羽国), ②の下関(長門国), ③の長崎（肥前国）はいずれも**港町**。

3 解答：②　武士などは約 6 ～ 10%，工・商は約 7 ～ 10％で，百姓は約 80％を占めていた。

4 解答：③　①のかわた，④の長吏はいずれも②**えた〔穢多〕**のことで，農業のほか，皮革製造・わら細工や雑役（死牛馬の処理・行刑役など）に従事した。

5 解答：③　①の唐獅子図屛風は桃山文化における狩野永徳の作品。②の大徳寺方丈襖絵は**狩野探幽**，④の夕顔棚納涼図屛風は久隅守景が描いた。

6 解答：①　②の茶屋四郎次郎は京都の豪商，③の末吉孫左衛門は摂津平野の豪商。④の**本阿弥光悦**は舟橋蒔絵硯箱をつくった。

7 解答：④　①の狩野探幽は絵師，②の西山宗因は談林俳諧を始めた。③の吉田光由は数学者。

8 解答：①　④の**林羅山**は**藤原惺窩**の門人となり，江戸で 4 代までの将軍に仕えた。